〔質疑〕シリウスは日量3トンの処理能力を有しているが、処理量が少ないのではないのか。

〔答弁〕22年度の実績は、1日あたり約1.6トンである。

処理量の少ない理由としては、3月の震災により稼働日数が、7日間少なくなった事、市内の小売店舗や飲食店などからの事業系ごみの量が前年度比で約21トン少なかった事、福岡地区6自治会の家庭の生ごみの量が前年度比約19トン少なかった事が挙げられる。

市民のごみ減量化という意識が進んではいるが、シリウス運営のためには、処理能力1日3トンという数字にできるだけ近づける努力が必要であると考えている。

シリウス

〔質疑〕シリウスは処理量により、経費の増減はあるのか。

〔答弁〕シリウスの運営については委託をしており、この委託料が、ほぼ予算の半額程度を占めている。その他電気料や水道料などの維持管理経費などがあるが、量によってそれほど支出額は変わらないと推測している。

〔質疑〕市税の滞納繰越分の収納率が低い部分について、どのような対応をしようとしているのか。

〔答弁〕できるだけ滞納のないように、現年度分で処理するように納税を促しているというのが基本的な考えである。

しかしながら、現実として滞納繰越分が発生し、その収納には非常に苦慮している。

〔質疑〕仙南地域広域行政事務組合に移管した市税滞納繰越分の徴収金額について伺いたい。

〔答弁〕仙南地域広域行政事務組合へ移管した市税滞納繰越分の徴収金額は、平成22年度分として2千280万円ほどの徴収実績である。

〔質疑〕学校給食において、魚や野菜の煮物などの献立の時、結構残されているという話を聞くが、年間どれぐらい残食があるのか。

また、給食用食材に地場産品の積極的活用として、温麺も使用されているが、活用の難しい温麺の調理の仕方などの検討はしているのか。

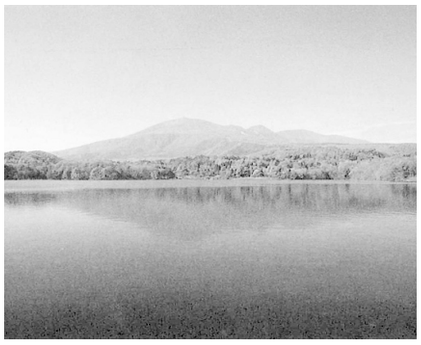
〔答弁〕22年度の給食の残食は、米、パン、副食全部含め、59・6トンとなっている。

給食への地場産品の活用については、栄養士が献立をつくる際に、より温麺等を意識しながら入れていくということで現在行っているが、なかなか温麺そのものを本来のような形で提供するというのは難しいので、サラダとかいろいろ工夫をしながら活用しているという状況である。

〔質疑〕川原子ダムの水素イオン濃度・BOD値が基準値を超えており、水質調査によって水質動向を把握し、汚濁予防に努めたとの事だが、原因について特定はしているのか。

〔答弁〕原因については、3点ほど考えている。畜ふんの流入による影響や、落ち葉などの混入、また、川原子ダムが非常に閉鎖性が高いものになっているので、底の部分にたまった泥の影響も考えられる。実際にこのことが一番の原因だというものについては特定できず、逆に言うと、そういったものが複合して、水質検査の結果が出ているのではないかと考えている。

今後については、基準値を超えているという実情を踏まえ、経過を観察していきたいと考えている。


川原子ダム

BOD値とは

日本名では生物化学的酸素要求量。最も一般的な水質指標の一つである。

水中の有機物などの量を、その酸化分解のために微生物が必要とする酸素の量で表したもので、特定の物質を示すものではない。一般にBODの値が大きいほど、その水質は悪いといえる。

水質環境レベルの指標として環境基準に用いられるのをはじめ、排水の性状や水処理装置の性能を表すため、JIS規格、水質汚濁防止法や下水道法、建築基準法などに登場する。

測定の方法は、採水により、水とともに採取されるその水域の微生物の活動による酸素消費を計測することで、一定時間外部から酸素供給がなされない場合に、その河川水の溶存酸素がどこまで減少するかを調べるものである。

出典：フリー百科事典「ウィキペディア」